

「平成 30 年 7 月 1 日に思う」

このほど、平成 25 年から 5 年間をかけて編纂<sup>さん</sup>してきた「大滝ダム誌」が完成しました。

ダム建設に要した 53 年もの年月を思うと、非常に感慨深いものがあります。ダム建設の“苦難の連続と重い決断”の歴史をつづった本誌は、単なる記録でも、過去の事象に批判や批評を加えるものでもなく、大きな犠牲を払って造られた大滝ダムの持つ役割と、村の存在意義を伝えることを目的に編纂<sup>さん</sup>されたものです。

執筆にあたっては、ダム事業を熟知し中心的な役割を担った人がほとんど他界されている中、困難を極める作業となりました。当時の会議録や公文書等々をもとに「どのような歩みであったか」また「どのように判断や決断に至ったのか」を記し、経緯と事実を積み重ねて慎重に正確に編纂<sup>さん</sup>を進めていきました。

物事は、歴史と経緯をしっかり踏まえてこそ、未来へつなげることが出来、新たな進歩があるものと私は考えています。

ダムの歴史は人、ひいては川上村そのものの歴史であり、川上村の人たちが「協力して良かったと本当に思えること」が肝心です。本誌の発刊ですべてが完了したわけではなく、この先大滝ダムをどのように利活用していくかが重要であり、我々が水源地の村として“ダムとともに誇りをもって生きる”覚悟を持つことが大事であると認識しています。

この「大滝ダム誌」を今後の村づくりに役立て、ダムの歴史が紡ぐつながりを大切に、引き続き水源地の村づくりを推進していきます。